

3年生学年だよ

令和3(2021)年7月1日
第16号
吹田市立第二中学校 第三学年

友達って何だろう②

友達について考える道徳2回目は、道徳の教科書の読み物を使って行いました。

「私がピンク色のキャップをかぶるわけ」あらすじ

水泳で全国大会を目指す「私」。大会で一緒になるMはいつもピンク色のキャップを被っている。Mと私は同じコースを毎回泳いでいるが、一度も話したことはない。それが流儀だと思っていた。しかし、ある大会からMは大会に出てこなくなり、Mと同じクラブのKから「Mはやめた」と聞く。



次の大会でMからの手紙をうけとる。そこには「骨の病気で自分はもう水泳ができないこと」「私の水泳の記録を見守っていきたいこと」が書かれており、最後は「ライバルへ」と締めくくられていた。

それ以降私は大会のたびにピンク色のキャップを被るのだった。

この読み物をよんだうえでどんな関係なら「友達」といえるのだろうか。「友達」の条件ってなんだろう。と考えていきました。今回もみんなの意見を紹介します。

☆友達のありかたにも色々あるんだなと思った。今まで友達はしゃべったことがあったりとかそういうものだと思っていただけ、自分の考え方によると思った。

☆友達とは幅広いものだと思った。でもそう考えると色々な人が友達になる。その友達の中から本当に信頼できる人を見つけようと思った。

☆どこからが友達がわからないけど、一緒にいて楽しい、というのがずっと続くのが友達だと思った。友達の条件とか考えずに仲良くしていきたい。

☆一緒にいると落ち着き、逆にいなくなれば寂しくなったり暗い気持ちになる。互いに意識しあえる存在が友達だと思う

☆友達も色々な人がおってもみんな考え方とか感じ方は違うけど学生として進む道は同じだから助け合わないとなと思った。

☆話し合っただけ気が合ったら友達という感じだったけど、言葉を交わさずに「大切な友」といえるのはカッコいいと思った。私もそれらしいライバルがいるけど、友達までにはいかないから、そういう友達がいたらいいなと思った。

☆ライバルや同じ夢を持つ人も友達になれると思った。

☆今一緒にいるのが当たり前になっている人たちがこれからも大切にしたいと思った。

☆友達の基準はそれぞれで、本音を言えるのが友達という意見もあるし、言葉を交わさなくても同じ土俵にたっているだけで友達という意見もあって共感できた。

☆ライバルという関係の人が今までいなかったから分からなかったけど、いつかそういう人が出来たときに、自分にとって友達と言えるのかなー。

☆友達とは何かと考えたときに、一緒にいて自分らしくいられる(疲れない)相手が友達なのかなと思った。

☆互いが互いを認め合い、高め合い、尊敬し合えるような関係。悩みや相談を打ち明けられるような関係。これまで知っていた友達の価値観であったり、いままで自分が作ってきた友達関係があったけどこの授業でまた新しい作り方が生まれた。

☆一緒にいるというだけで「本当の友達か」と聞かれるとそうでもないなと思った。

☆言葉を交わさなくても心が通じ合うことはあるんだと思った。友達とはこういうものだという基準はないんじゃないかと思った。

☆ライバルが消えたら自分は絶対悲しいと思う。高め合う人がいたほうがいい。ライバルとリスペクトする人は一緒なのかなと思った。

☆1回も話していなくても心が通じてたら友達なのかなって思った。友達とは時にはライバルであり、ともに歩いていける人なのかなと思う。

☆友達になることに定義はいらないんだなと思った。互いに相手のことを考えられればそれで友達。少し仲が悪くなっても友達であることに変わりはないのかなと思った。

☆好きでも嫌いでも友達は友達でこの主人公みたいに同じ思いを持っていてお互いが意識しあっている関係も友達だと思った。ライバル＝仲間＝友達。

いつも一緒にいて楽しくできる人も、もちろん大切な友達です。でも、「もうだめだ」、「楽な方に流されたい」と思ったとき、「あの人も頑張ってる。だから自分もがんばろう」「ここで逃げたら、一緒に戦ってきたあの人ががっかりさせる。」と弱気な自分の背中を押してくれる、そんな存在もまた、友達の一人なのかもしれません。自分の頑張りや取り組み姿勢が、誰かの刺激になっていることもきっとあるでしょう。

75期生も、同じ方向を向く「友達・仲間」です。今自分の周りにはいる人たちを大切に、そしてお互いがいい刺激を与えあえる学年であってほしいなと思います。

